

本明川は、洪水氾濫の危険性だけでなく、渇水の恐れもあります。

■平成6年7月の渇水の様子



渇水は農作物被害だけでなく、川に棲む生物にも大きな影響を及ぼします。



■これまでの主な渇水

発生年	浸水被害の状況
昭和35年	深刻な県下の水不足、農作物の被害が18億円。
昭和41年	干ばつにより、諫早市の水田面積の半分にあたる約1,100haに被害。県下の水稲被害は5億3,300万円。
昭和42年 (長崎渇水)	県下の農作物の被害は戦後最大となり、水稲は作付面積の76%が被害を受け、被害額は40億円。
昭和57年	諫早市長田地区で、田植えが遅れる等の被害が出たため、消防団の緊急出動により支援水を送る。
平成6年 (列島渇水)	本明川では、アユやハヤの大量死が続いたため、諫早市が魚を救出。諫早市は1,165haの作付面積のうち、176haで水不足が発生。諫早市における農作物の被害は約1億5千万円。